

「天徳内裏歌合」の和歌を読んでみよう！①

問題1

A

Aの空欄のくずし字を読んでみよう。



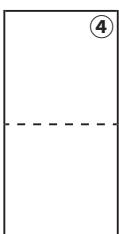
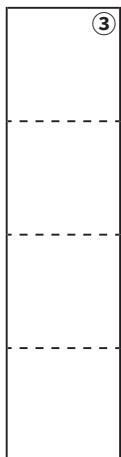
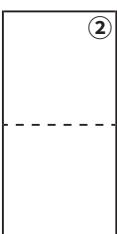
歌合とは？

かじん人が左右二組に分かれ、
おなじ題で詠んだ和歌の優劣を競う遊びです。ひらがなが普及し、和歌が盛んに詠まれようになり、貴族の間で流行しました。

この和歌は村上天皇の時代、天徳四年（九六〇）に、内裏（天皇の住居、御所）の歌合で詠されました。

平
たひらのかね
兼
もり
盛

しのぶれど色に



ものや

は

我わ
が

* * *
問と色いろ
ふ顔かほぶ隱く
(問う)う色ひくれる
表情ひくじよう
尋ねるたずねる
質問するしつもんする

★ 和歌の題は

★ この和歌を読んで、わかつた
ことをメモしましょう！

「天徳内裏歌合」の和歌を読んでみよう！②

問題2

Bの空欄のくずし字を読んでみよう。

B



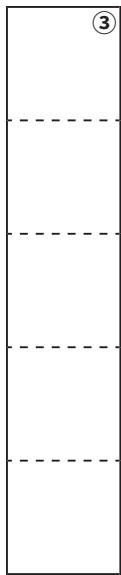
歌合とは？

歌人が左右二組に分かれ、同じ題で詠んだ和歌の優劣を競う遊びです。ひらがなが普及し、和歌が盛んに詠まれようになり、貴族の間で流行しました。

この和歌は村上天皇の時代、天徳四年（九六〇）に、内裏（天皇の住居、御所）の歌合で詠されました。

おもひそめしが

人



まだき*



てふ吾

なは

壬生忠見

*てふ…～という。
*まだき…まだその時期ではない。
*おもひそめ…思ひはじめる。早い。

★和歌のお題は

★この和歌を読んで、わかったことをメモしましょう！

解答

問題1 * 括弧内は字母

- ①いでにけり（以帝爾介利）②こひ（己比）
 ③おもふと（於毛不止）④まで（末天）

☆和歌のお題 「しのぶ恋」

問題2 * 括弧内は字母

- ①こひす（己比寸）②たちにけり（太知爾介利）
 ③しけずこそ（之禮春己曾）

☆和歌のお題 「忍ぶ恋」

教材について

ねらい：くずし字の学習を通して、文字や言葉の変化と平安貴族社会における和歌の在り方を理解する。

時間配分：説明5分、解く時間15分、解答解説5分
 計20分

対象教科：国語・社会・書道

○使い方（1または2の方法で使用します）

- 1 問題1または2を単独の教材として使用します。使用しなかつた方の和歌は教員が説明してください。
 2 ペアワークまたはグループワークで問題1・2をそ

れぞれ解きます。問題1と2それぞれの和歌の解釈から、この対決のお題を探ります。

問題解説

* 時間がある場合は調べ学習をします。

今回使用した二題は、「天徳内裏歌合」において平兼盛と壬生忠見が詠んだ歌で、名勝負として後世に語り継がれています。双方共に素晴らしい歌で、なかなか決着がつかず、村上天皇（第62代天皇・在位九四六～九六七）に判断を仰いだところ、「しのぶれど」と口づさんだとことから、兼盛が勝ちました。『沙石集』（鎌倉・説話・無むじゅう道曉）によると、負けた忠見はショックのあまり、心を病み、「不食の病」（拒食症）になつて、亡くなつたとされています。しかし、『袋草子』（平安・歌論・藤原清輔）や『忠見集』から、『沙石集』のエピソードはファイクションで、忠見はその後も生きていたことが分かります。このあたりのエピソードは調べ学習に取り入れてみてください。

本来、歌合はお題に対して和歌を詠むのですが、今回、和歌の内容からどんなお題で競ったのか推理して

みましょう。

問題1

「百人一首」40番の和歌です。（所載歌集『拾遺

集』恋一 六二二）作者は平兼盛です。

① 「い」は現在のひらがなと同じ形で「以」からきて

います。「で」は「帝」に濁点がついたもの、「に」は「爾」、

「け」は「介」、「り」は「利」です。「いづ」はダ行下二

段動詞「出づ」（出る）で「にけり」は「してしまった」

という意味なので、「顔（色）に出でしまった」と訳します。

「色」とは、現代と同じ色彩に関する意味だけではなく、色彩の美しさから転じて、人の容姿・容貌の美しさ、人の内面が表れる表情、自然の気配を表現するのにも使われました。特に、「色に出づ」は、恋の思いが表情に表

れる場合に用いることが多い表現です。

② 「こ」は「己」、「ひ」は「比」で「こひ（恋）」を指します。なお、「恋」は恋愛に関する意味以外にも、目の前にはないモノを求めて、慕う気持ちを表します。

③ 「おもふ」は現在のひらがなに近い形で、「於毛不」です。直前の「や」が疑問の係助詞で「思ふ」が連体形の係り結びとなり、「（恋の）もの思いをしているのか？」

となります。「と」は「止」です。

ハ行四段動詞「思ふ」は、恋愛表現の場合、愛情を誓う語として用いられることがあります。神仏に誓って愛するというニュアンスが込められています。

④ 「ま」は「末」、「で」は「天」に濁点がついたものです。「人が尋ねる（質問する）まで」となります。

和歌全体を活字に直すと、次のようにになります。

しのぶれど 色にいでにけり 我がこひ（恋）は

ものやおもふ（思ふ）と 人のとふ（問ふ）まで

訳 隠していても、顔に出でしまった。私の恋は、「恋の物思いをしている？」と人が尋ねるほどに。

表現 二句切れ・倒置法

隠していたはずの恋。しかし、他の人から私を見ると、「どうしたの？」と尋ねられるような顔色をしていたんだ。と会話的要素と客観的要素を両方読み込んだ作品です。「しのぶれど」とありますから、「隠していた恋」＝「忍ぶ恋」がお題だとわかります。

問題2 「百人一首」41番の和歌です。（所載歌集『拾遺集』

恋一 六二二）作者は壬生忠見です。

教えるための手引き

① 「い」は「い」、「る」は「ヰ」、「か」は「ヰ」です。
「いわ（恋）」を「わ（ヰル）」いう意味です。

② 「ヰ」は「未」「だ」は「多」に觸感がついています。
「ヰ」は「畿」です。「まだき」とは、「町くわ（まだその
時期に達してこなう」という意味の語詞です。「た」は「太」「ぬ」
は「鬼」「立」は「禮」で、「たち（立む）」で、直後の「に
けり」が「へしてしまつた」という意味なので、「（尊が）
立つてしまつた」と読みます。

③ 「ニ」は「れ」「れ」は「禮」「ヲ」は「春」に獨

点がつきます。ハンドの「知る」(ハ行ト)〔啟動詞〕は「知
てしる」ではなく、「知られぬ」という意味になり、「ず」
という打消の助動詞(〜ない)がつくると、「知られない(よ
うに)」となります。「いわ」は現在のひらがなとほほ同
じ形で、「口體」がもとになつています。「いわ…口然形」
で係り結びになつていて、逆説(〜けれど)で読みます。
和歌全体を活字に直すと、次のようにになります。

いわ（恋）すてら 船なはまだき たちにけり 人
し（知）れずいわ おわひそめ（思ひ初め）*しが（レ
カ） *教材は「しが」となつてます。

訳 恋をしているという噂が早くも立つしました。
人知れず思い初めたばかりなのに。

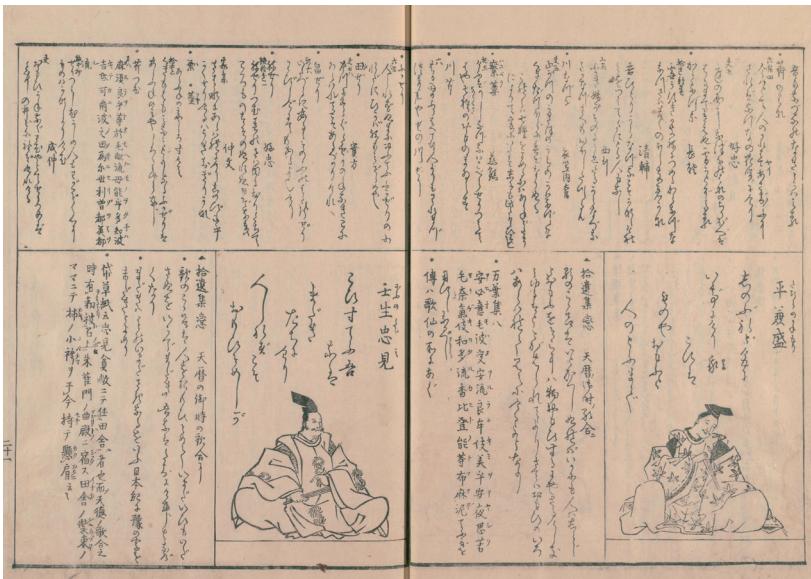
表現 三句切れ・倒置法

他の人に知られないようにして、いたはずのひそかな私
の恋が、なぜか人の噂になつてしまつてしる。隠してい
たはずなのに、他の人にばれた驚きや戸惑いを感じられ
ます。平兼盛の和歌のように、お題に直結する言葉はあ
りませんが、「隠していた恋」 = 「忍ぶ恋」がお題であ
るといふが読み取れます。

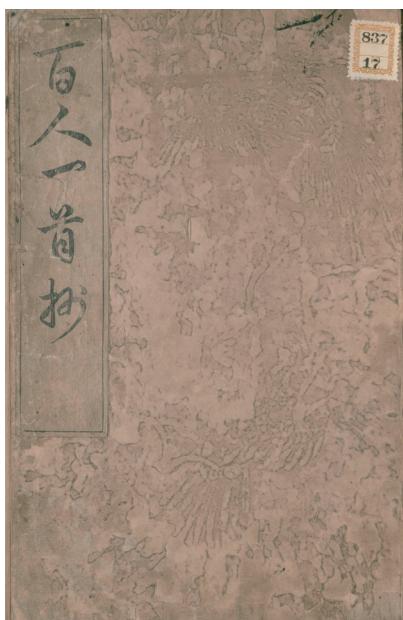
使用教材

『百人一首抄』は文政一年（一八一九）に江戸時代後期
の国学者で、歌学者である長野美波留によって書かれま
した。上段に三十六歌仙と年中行事、下段に百人一首抄
が書かれています。歌仙絵や歌、歌意、出典などが掲載
されています。江戸時代後期の作品ですので、くずし字
も比較的読みやすく、初級教材としておすすめです。底
本は「国立国会図書館デジタルコレクション」
[https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/
pid/2538626](https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538626) (提供: 国立国会図書館)





『百人一首抄』平兼盛・壬生忠見の歌が掲載されているページ(国立国会図書館デジタルコレクション)



『百人一首抄』表紙 (国立国会図書館デジタルコレクション)